

# 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

|   |                      |
|---|----------------------|
| 氏名： 増田 和也   | 提出日：平成 24 年 12 月 7 日 |
| 東南アジア研究所における職名：研究員（科学研究）<br>* 右記の該当する職位に○をつけて下さい。（講師・助教・助手・ <b>ポスドク</b> ・博士課程学生・修士課程学生・学部学生）  |                      |
| 派遣先の研究機関等（調査を実施した国名・機関名及びカウンターパートの研究者名）：<br>派遣先：Van Vollenhoven Institute for Law, Governance, and Development Faculty of Law, Leiden University<br>カウンターパート：Dr.Jacqueline Vel 氏<br>* 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。（ <b>大学</b> ・研究機関・企業・その他）   |                      |
| 派遣期間：平成 24 年 11 月 20 日 ～ 平成 24 年 11 月 28 日（派遣日数：9 日）  |                      |
| 研究活動等の主な内容（該当する番号に○をつけてください。複数可）<br><b>①</b> 研究・実験、②フィールドワーク、③セミナー、④インターンシップ、⑤サマースクール等の講習、⑥学会出席、⑦単位取得等、⑧その他   |                      |
| 研究活動の主な領域（該当する番号に1つ○をつけて下さい。）<br><b>①</b> 人文学、②社会科学、③数物系科学、④化学、⑤工学、⑥生物学、⑦農学、⑧医歯薬学、⑨総合領域、⑩複合新領域  |                      |
| 派遣の概要（500～700 字程度）<br>ポスト・スハルト期のインドネシアでは、民主化にともなう国民の権利向上や商品作物の栽培拡大などを背景に、それまで国家が強権的に管理してきた森林地域へ住民が流入・回帰して新たな居住地や耕作地が拓かれている。とくにスマトラ島リアウ州ではアブラヤシ栽培ブームを受けて、アブラヤシ栽培用地を求めた人びとが森林に侵入して農地を開墾している。申請者は、これまで同州内の内陸部（ブララワン県）や沿岸部（ブンカリス県）で村落調査をおこなってきたが、これらの調査はあくまで特定の村落社会における現在の状況を微視的に把握するにとどまり、地域全体の動向を歴史的視点もふまえながら捉えきれていない。<br>そこで今回の派遣では、ライデン大学図書館および王立言語地理民族学研究所(KITLV)において、オランダ領東インド時代の歴史資料を収集することを第一の目的とする。また、受け入れ先のライデン大学ファン・フォーヘンホーフエン研究所では、インドネシア東部におけるナンヨウアブラギリの導入をめぐる地域社会の変容についてのプロジェクトが進行しており、申請者の研究テーマに近い。そのため、プロジェクト関係者と情報交換および議論をおこない、インドネシア研究オランダの研究者とのネットワークを構築することを第二の目的とする。 |                      |
| 事業に係る研究成果（500～700 字程度）<br>ライデン大学図書館および王立言語地理民族学研究所において、シアク王国時代に関する文献および地図資料を収集した。オランダ植民地の資料だけでなく、植民地期を対象とした歴史学の研究成果など、日本やインドネシアでは入手困難な資料を手にすることができたのはじつに有益であった。諸事情により、当初の計画よりも滞在期間を短くせざるを得ず、滞在期間の大半を文献資料の収集と閲覧に充てた。今後、収集した資料を参考としながら、とくに 19 世紀から 20 世紀半ばまでのシアクおよびブンカリス地域の人口動態、自然利用、交易について整理する。そして、これまでの村落調査で収集したデータに補足するかたちで、当該地域における森林開発の展開過程についての論文を執筆していく。   |                      |